



もっと
ジャックちゃんであそぼう！

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止



まえがき

ドヒー！こんにちわ、इटです。

一応この本は前回の「ジャックちゃんであそぼう！」の
続きというか、おまけみたいなものです。

本当はカルデアのちびっこ達でひとつ描く予定だったのですが
どう考えても間に合わないページ数だったので変更しました…。

前回の本ももうちょっと続きそうな感じで終わってたので
丁度いいかなと…。

それではお楽しみください。

あれ…
わたしたち…

…ちゃん

なにしてたんだっけ…？

ジャ……ん

おんおん…
おんおんおんおん…？

なんだろう…！
声が聞こえる…

ジャック
ちゃん

大丈夫かい？

この声…
わたしたちの大好きな…

おがあ…さん…の声だ…

ジャックちゃん
気が付いた？

…良かった

そっか…わたしたち…たしか
おがあさんと…あれ…？

なんだっけ…



おかあさん

まだ
遊べるね

あ……

思い出した……
わたしたち……

重ねて
令呪を以って
命ずる

おかあさんと
いっしょに……



すごく気持ちいい遊びを！

はっはっはっ

はっはっはっ
はっはっはっ
はっはっはっ

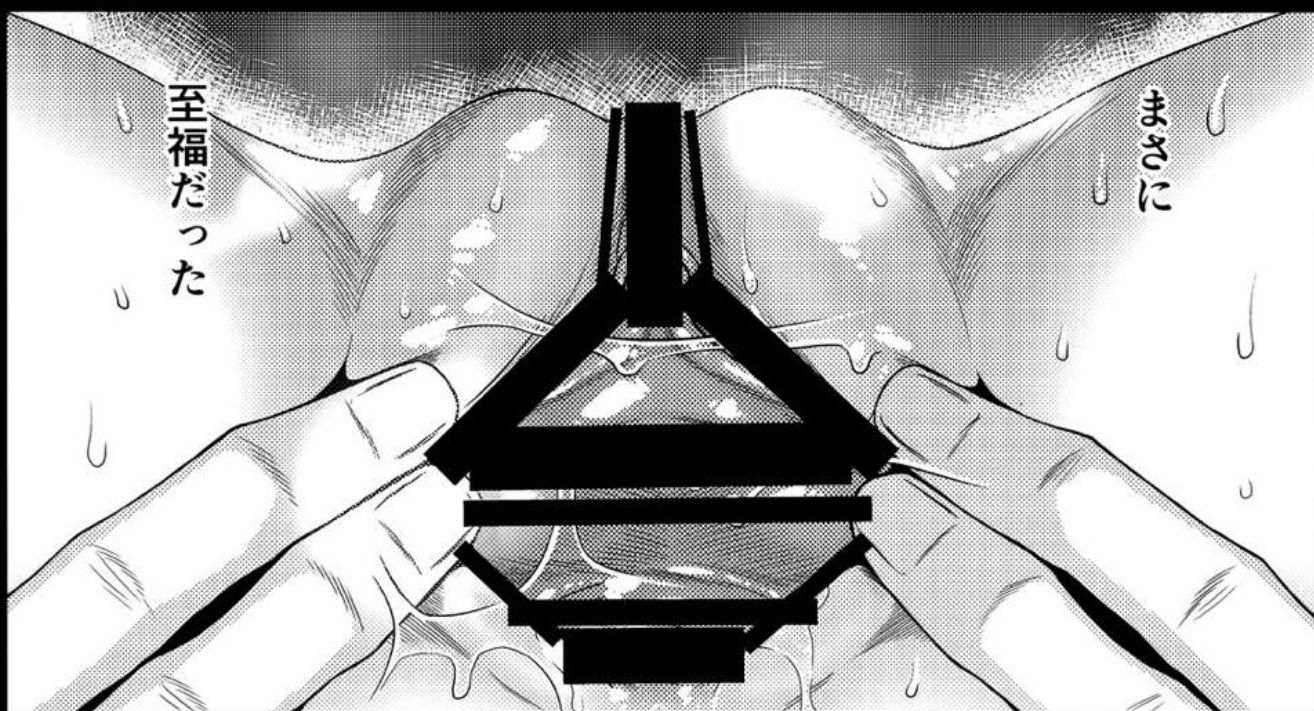
はっはっはっ

はっはっはっ

♡



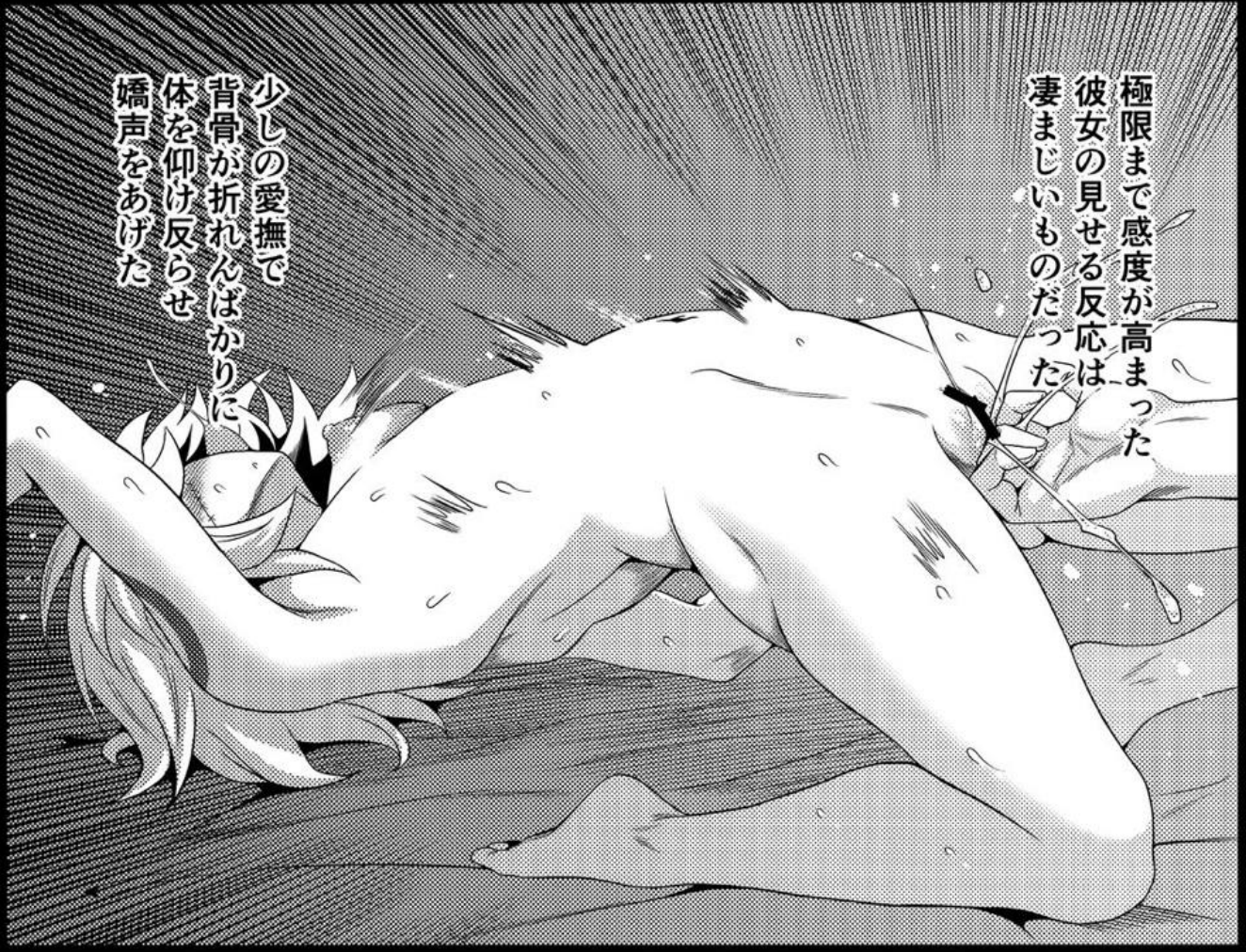
そこからの時間は
僕にとって…



まさに

至福だった

極限まで感度が高まった
彼女の見える反応は
凄まじいものだった



少しの愛撫で
背骨が折れんばかりに
体を仰け反らせ
嬌声をあげた

責める場所が変わるたびに
様々な反応を見せてくれる
彼女はとも面白く

僕はしばらくの間
彼女の体を弄ぶのに
夢中になっていた


僕はそれがとても
嬉しくて、ひたすら
彼女が感じるであろう
個所を責めたてた……



ひとしきり彼女の
反応を楽しんだ後、僕は自分のモノを
無理矢理ねじ込み激しくピストンした


出し入れするたびに
感度の高まった彼女のオマンコからは
洪水のように愛液が溢れ、飛び散った





最後に僕が
一番奥に射精すると同時に、
彼女も激しい絶頂を迎えた

彼女はオマンコから
盛大に潮を吹き散らかし
その飛沫が僕と彼女の三人を濡らした



彼女のオマンコはまるで
意志を持っているかのように
ビクビクと動いており、射精が終わっても
しばらく僕のモノを啜えて離さなかった

それはまるで射精されたことに
オマンコが喜んでいようだった

膣内に射精し終えた後：
新たな欲望が芽生えた僕は、
今度は彼女のアナルに挿入した

アナルセックスはお互い
初めての経験だった


まだ未開拓の秘部を突然こじ開けられた
彼女の不意を突かれたような表情は
今でも忘れられない






オマシコとは
また違ったアナルの感触に
僕は夢中になり、激しく
腰を打ちつけた

未経験の快感からか…はたまた
腹部の圧迫感からか、彼女は
口から胃液を逆流させ、何度も
気絶しそうになったが、
そのたびに腕と髪を掴んで
無理矢理上半体を引き起こし、彼女の
尻穴のさらに奥深くを抉った



彼女の入回はまるで吸盤の
ように引っ付いていて…

射精が終わって引き抜こうと
しても、尻穴がめくれあがり
中々離してもらえなかった




ようやく引き抜くと
彼女の尻穴はぽっかりと
開いたままになっており…

お尻の奥から出る空気が
精液をボコボコと泡立たせ、
そのなんとも言えない匂いが
僕の部屋を満たした

その後もただひたすらに
彼女の体を味わい尽くした

色々な体位で体を重ね合い、
お互い何度も何度も絶頂を
繰り返し…





やがて僕の欲望の火が消え…
気が付いた頃には、僕のベッドの上で
カエルのように倒れてる彼女がいた…

いくら呼び掛けても反応せず、
そのお腹は僕の精液で満たされ、
妊婦のようにぼっこりと膨れており…
…いつの間にか僕の右手の呪も
全て消費されていた…

☆数日後☆

はい…

完全に
やりすぎました…

ニコオ…

絶対に嫌われた。
あれから数日。
まともにジャックちゃんの
顔をみれない。顔を合わせ
るのが怖い。半ば騙したよう
な形だった上にあんなオナホ
みたいな扱いして…まあ全部
僕が悪いから自業自得なんだ
けど

おか…さ…

…かあさん！

それでももしかたないじゃない
かだってジャックちゃんが可
愛すぎるからえつちな事いつ
ぱいしたくなるのは当然だ
ろ？仮に他の者が同じシチュ
エーションの場合我慢できたか？
出来るはずないやとにかく
彼女に謝りたい許してもらい



おかーさん！

きええーっ

マ



ジャ：ジャックちゃん
この間はその：本当に
ごめん！

？ どうして
あやまるの？

ねえ、おかあさん
それよりも令呪
ふっかつした？

わたしたちね：
またおかあさんに
遊んでほしいんだ

えっ：

でも今度は
もうちよっと
手加減して：
…ね♡

おわり

あとがき

がハハ…お疲れ様です、イトです。
今このあとがきを皆さんが読んでいるという事は
なんとか新刊が間に合ったということです。
この本を描き始めたのが8月5日なので、間に合ったら
本当に奇跡ですね…。
ちなみにこのあとがきから最初に書き始めてるので
本文はこれからです。
未来の僕…頑張ってるね…。

奥付

「もっとジャックちゃんであそぼう！」
発行日：2019年8月12日(コミックマーケット96)
(2019年9月6日第2刷発行)
作者：イト
サークル：低速ソニック
印刷所：トム出版様
EMAIL:do-it@hotmail.co.jp

18歳未満の譲渡・閲覧禁止
無断転載・無断複製禁止
WEBアップロード公開の禁止

TEISOKU SONIC

PRESENTS